

## ◇下田市ってどんなまち

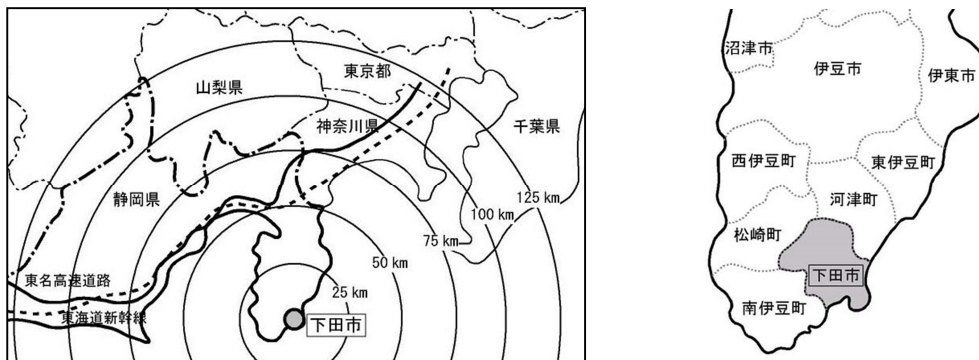
下田市は、静岡県東南部、伊豆半島南部の東側に位置しており、東京都心から約140km、熱海・三島からは約50kmの場所にあります。市域は東西13km、南北16km、面積は104.38km<sup>2</sup>です。

天城山系の南端から太平洋へと続く豊かな自然に恵まれ、約47kmに及ぶ海岸線や山々が織りなす景観は、下田を代表する大きな魅力となっています。

年平均気温は約17℃と温暖で、黒潮の影響を受けた比較的暮らしやすい気候です。四季を通じてさまざまな草花や果実を楽しむことができ、豊富な海産物も地域の魅力のひとつです。

また、温泉や開港の歴史、美しい海を活かしたマリンスポーツなど、多くの観光資源にも恵まれており、首都圏を中心に年間を通じて多くの観光客が訪れています。

### 〔下田の位置〕



### 〔人口と世帯数のようす〕

令和8年4月1日現在、人口は18,560人、世帯数は10,106世帯です。

本市では人口減少や少子高齢化が進んでおり、人口のピークであった昭和50年代と比較すると年少人口の割合は減少し、高齢者人口の割合は大きく増加しています。

一方で、年間約200万人の観光客が訪れる観光地でもあり、特に夏の海水浴やイベント開催時は多くの人で賑わいます。人口規模に比べると、人の往来や交流機会の多いまちと言えます。

### 〔気候のようす〕

下田市は、黒潮が流れる太平洋に面しているため、年間平均気温は約17℃と比較的温暖的な気候です。真冬でも雪が降ることは少なく、過ごしやすい地域と言えます。

ただし、地形や季節によって環境は大きく異なります。山間部では冬季に霜や路面凍結が発生することもあり、海岸部では強風や飛砂、塩害の影響を受ける地域もあります。

また、台風時には強い風雨に見舞われることもあります。温暖的なイメージのある伊豆地域ですが、実際に暮らすうえでは自然環境との付き合い方も大切になります。

## 〔産業のようす〕

令和2年の国勢調査による本市の産業分類別就業人口の割合は、第1次産業(農林漁業)従事者5%、第2次産業(工業)従事者12.7%、第3次産業(サービス業)従事者81.7%となっています。

地域の産業は、観光業を支える宿泊業や飲食業、卸売・小売業などを中心としたサービス業が主体となっています。

また、小規模経営を中心に、地域の自然資源を生かした農業・林業・水産業も営まれており、下田らしい地域産業として受け継がれています。

## 〔下田までのアクセス〕

下田市は、首都圏から日帰りも可能な距離にあります。主なアクセス手段は、電車と車です。

電車の場合は、下田―熱海間を伊豆急行線・JR伊東線により結ばれており、首都圏からは新幹線で熱海駅を経由するほか、東京―下田間直通の特急電車も利用できます。所要時間は概ね3時間です。

車の場合は、東名高速道路から国道135号(東海岸ルート)または国道414号(甘木方面ルート)を利用し、所要時間は約4時間が目安となります。

現在は、沼津方面と下田を結ぶ「伊豆縦貫自動車道」の整備が進められており、令和8年4月現在、沼津方面から月ヶ瀬ICまでの区間と、河津七滝ICから河津逆川IC間が利用可能となっています。

また、下田港からは伊豆諸島(新島、式根島、神津島、利島)を結ぶ定期航路が運航されています。

## 〔特色ある下田の歴史〕

下田港は、古くから東西海上交通の要衝として栄えてきた港です。

江戸時代には、風待ち港や物資補給の拠点として利用され、海の関所である船改番所が設置されていた頃には、「出船入船三千艘」と称されるほどの賑わいをみせました。

幕末には、ペリー来航により締結された日米和親条約により開港場となり、日本の開国の舞台のひとつとなりました。

その後、ハリスが玉泉寺に日本初の総領事館を開設し、さらにロシア使節プチャーチンが来航し日露和親条約が締結されるなど、日本近代史において重要な出来事の舞台となっています。

市内には、当時の歴史を伝える史跡や資料などが数多く残されており、国際交流の歴史や文化が現在まで脈々と受け継がれています。

## ◇下田の地域構成について

下田市には、町村合併前の地域を元とした6つの地区（下田・稲生沢・稲梓・浜崎・朝日・白浜）があり、現在も地区ごとに異なる特色や暮らし方が残されています。

また、市内には41の自治会組織があり、地域ごとにさまざまな活動が行われています。

### 〔地域のコミュニティ〕

下田市は、観光などを通じた人の交流が多い地域である一方、昔ながらの風習や地域のつながりもまだまだたくさん残されています。

初めて下田で暮らす場合、地域でのコミュニティ活動や近所づきあいに戸惑うこともあるかもしれません。また、「田舎はのんびり暮らせる」というイメージを持たれることもあります。また、地域行事や自治会活動など、人との関わりで成り立っている部分も多くあり、「田舎は意外に忙しい」のが実情です。

住まいを選ぶ際には、地域ごとの雰囲気や暮らし方、自治会活動などについて事前に確認しておくことをおすすめします。

### 〔地域の暮らし〕

下田市では、地域のつながりを大切にした自治会活動が行われています。

地域によっては、環境美化活動やお祭り、防災活動などへの参加、ご近所同士で助け合う慣習が残っているところもあります。

また、自治会に加入することで、区費、組費、消防協力費、寄附金、テレビ組合費などの費用負担が発生する場合があります。

市からのお知らせ（回覧板）や地域防災、ごみ収集など、自治会を通じて行われている取り組みも多いため、実勢の暮らしにおいて自治会は身近な存在となっています。

### 〔6地区のあらまし〕

#### 《下田地区》

下田の行政、商業、生活等の中心地。港町の風情、開国の歴史、歴史的なまちなみを感じることができます。

#### 《稲生沢地区》

古くからの温泉地として親しまれてきた地域。中心市街地にも近く、生活の利便性と落ち着いた住環境を兼ね備えています。

#### 《浜崎地区》

海と共に暮らす、漁業の盛んな地域。地域のつながりが比較的強く残っています。

#### 《朝日地区》

海岸や里山の自然に囲まれた地域。外国人居住者や別荘利用も多く、多様な交流が見られます。

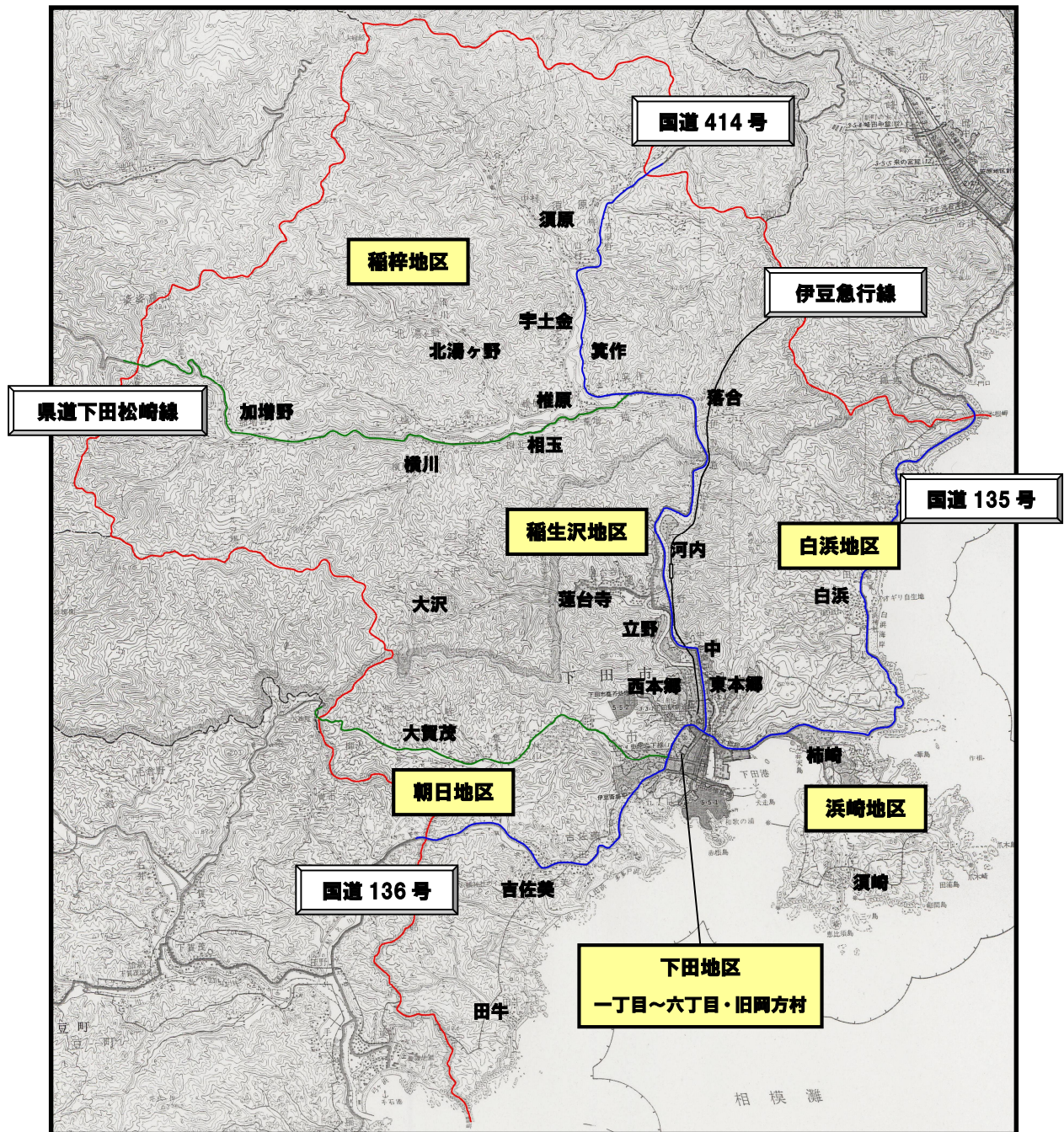
#### 《稲梓地区》

山や清流に囲まれた里山地域。農的な暮らしや自然に近い生活ができますが、買い物や交通面で不便を感じる場合もあります。

#### 《白浜地区》

太平洋と白い砂浜を眼前に望む地域。マリンスポーツが盛んで、夏季は多くの観光客で賑わいます。

《下田市の概要図》※掲載の地名は、自治会名ではなく、主な住居表示を示したものです。



《間違いではありません！下田の住居表示》  
 下田市の市街地には、「下田市一丁目～六丁目」という住居表示があります。一般的には「◇◇市○○町一丁目」のような表記が多いため、初めて見ると驚かれることがありますが、誤記ではありません。  
 郵便物や住所登録などの際はそのまま「下田市○丁目」と記載してください。